

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス みどりおか				公表日	令和7年 3月 6日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			活動内容によっては手狭になってしまうので、近隣施設の活用をする。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		予定などをスケジュールボードに記載して、視覚から情報を得られるようにしている。フロア内に敷いてあった畳を取り外したことで段差が無くなった。	階段が急勾配で、雨や雪の時は滑りやすくなるので、現在の滑り止めを大判に変更する。課題等の活動時に一人ひとりの特性などを意識した場所の指定が必要に思う。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		休憩やクールダウンが出来る個室の設置と移動式パーテーションを使用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		各職員が上司との面談を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表の意見を把握し、対応するようにしている。	今後も保護者の方からの意見を把握する場を活用していく。(送迎・面談・評価表など)	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現段階では第三者による外部評価は行っていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修に参加し、研修内容の報告を事業所内でも行っている。		
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		今年度より支援プログラムをHPに掲載している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		支援用プロフィールの作成、保護者との面談を実施している。相談員からの情報も含めてニーズや課題の分析を行っている。	個々の利用者ニーズを検討したうえで計画の作成を行っていきたい。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画会議を実施し、支援内容について検討を行っている。	スタッフと共通理解を深めることでさらなる利用者への支援の改善を行っていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		スタッフと検討を重ねて個別支援計画書を作成しているので共有できている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		保護者、相談員から頂いた情報と日々の活動から状況を把握するように努めている。	専門家が使っているツールは使用していない。本人の状況については保護者や相談員から情報を得てアセスメントをしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		今年度より5領域を全利用者の支援内容に盛り込んで計画の作成を行っている。		

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動内容の立案はスタッフ間で話し合っている。	日々の活動予定は特定のスタッフが中心となっているので全体で話し合っていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節行事や制作、外出行事などを行っている。	ブラッシュアップしつつ新たな活動を取り入れていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		本人の特性や保護者からの聞き取りでニーズに合わせた個別と集団を取り入れている。	集団活動が難しい場合は無理強いしない。少しでも集団と関わりが持てるような支援に努めていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		スケジュールボードにその日の活動内容などを記載し確認をしている。	それぞれが確認のみの体制になりつつあるので役割分担なども含めミーティングが必要。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		利用日の様子は一人ひとり記録に残している。	送迎後、気付いたことの共有を行っているが振り返りの時間を設ける必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援計画の内容に基づいてケース記録を行っている。モニタリングに繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に一度、モニタリングを行っている。	頻繁な見直しは行っていないが、必要に応じて検討していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		一人一人にあった療育や個別課題、買い物練習などを行い、遊びの中で利用者同士でルールや約束事を話し合う機会を設けている。	併設施設の利用者との関わりはあるが、地域交流の広がりが持てたらと思う。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		支援を通して自己選択をする機会を設けている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		主に児童発達支援管理責任者が参加している。	1人の考えに固執してしまう可能性もあるので事前に対象児に対しての情報整理が出来るように検討していきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		ケース会議や担当者会議に関係機関への参加を促し、現状の理解や支援の方向性を話し合っている。	医療機関との繋がりは主に相談員が行っているため、直接的な関わりが行えていない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校の月間予定表や下校表、事業所の利用予定表を共有している。参観日やオープンスクールにも参加させていただいている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		相談員と共に園へ見学に行き、様子や支援の共有をしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			現段階で対象児がいない。必要時がきたら情報共有を行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		放課後等デイサービス連絡会議は毎月開催している。	相談員を通じてスーパーバイズからの助言を聞くことはあるが直接的なやり取りは行えていない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			現在は行えていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		管理者が参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳や送迎時にやり取りを行っている。面談にて共通理解をしている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			研修等の通達があった際は周知をしていきたい。	

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		契約時に保護者から話を伺い、相談員が作成する児童支援利用計画書に基づいて作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画の説明を行い、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談を頂いた際には必要な助言や面談を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○	現在、保護者同士やきょうだい同士でのコミュニティを用意することは行っていない。	保護者同士の交流などを希望される方がいたら検討していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		契約書に苦情受付窓口を記載し説明もしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ブログ、Instagramで発信をしている。活動写真の閲覧が出来るようにしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報取扱い同意書を作成し、保護者からの同意を頂いている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		保護者との情報のやり取りは行えている。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		介護事業の利用者の方と合同イベントを行っている。		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事業所内で研修を行っている。保護者へは契約時に文書と共に説明を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年3回避難訓練を実施している。消防署立会いのもと消火器訓練を行った。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に確認を行っている。お薬手帳のコピーを頂いて、服薬を把握している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		利用前に聞き取りをし、食物アレルギー調査票への記入をして頂いている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		今年度より安全計画を保護者へ周知していく。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを記録し、事業所内で共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部研修に参加した職員が事業所内で報告を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		計画書に記載し、保護者への説明時に同意を得ている。	